

ステージ判断指標の見直しについて

現在のステージ判断指標

【現在のステージ判断指標の考え方】

- ・ 県民の皆様にとってできる限りわかりやすいものとするという観点から、国の新型コロナウイルス感染症対策分科会（以下「分科会」という。）から提言のあった判断指標をベースとする。
- ・ そのうえで、分科会からの提言はステージⅢ・Ⅳの数値のみであったことから、ステージⅠ・Ⅱの判断指標を県として独自に設定

新たなレベル分類

- ・ 令和3年11月8日開催の分科会において、ワクチン接種の進捗、医療提供体制の強化等を踏まえ、これまでのステージ判断指標に代わり、**医療のひっ迫状況を重視した新たなレベル分類の考え方が示された。**
- ・ 新たなレベル分類においては、一部を除いて国から具体的な数値は定められず、各都道府県が「予測ツール」および「これまで用いてきた様々な指標」の双方を用いて総合的に判断するとなっている。

見直しの考え方等

- ・ 分科会の提言を踏まえ、4段階のステージから **5段階のレベル分類に見直し**
- ・ レベル判断に用いる指標については、**これまで用いてきた指標を中心に**検討。
- ・ 分科会から提言のあった **「予測ツール」に基づく3週間後の病床数についても判断指標の1つとして用いる**ことを検討。
- ・ 判断指標の各レベルごとの基準となる値等については、**これまでの数値との継続性も踏まえながら、県で独自に設定**し、レベルの判断は総合的に行う。

※ 予測ツール

- ・ 重症者数、全療養者数、新規陽性者数等の情報をもとにその後の重症者数などがどの程度になるのを推定できるツールとして分科会において示されたもの
- ・ 本ツールによる結果を参考情報の一つとして、必要な対策を適切なタイミングで行うことで、予測ツールで推定された状況を避けることが期待される。